日本応用経済学会ニューズレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第８号　2016 年 9 月

日本応用経済学会事務局：〒812-8581　福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学経済学部
TEL/FAX：092(642)4448
E-mail: jaae@econ.kyushu-u.ac.jp
http://mweb.healthcare-m.ac.jp//

目次

会長挨拶
前会長挨拶
理事会報告
学会誌編集委員会
学会賞選考委員会
国際交流委員会
訪問！研究室
2016 年度秋季大会のご案内
事務局だより
2015 年度決算資料
2016 年度予算資料

I.　会長挨拶

2016 年 9 月
日本応用経済学会
会長　成生達彦

私にとって学会の魅力は，多くの研究者と討論することによって自らの研究を促進できることです．このような討論の場として研究大会や学会誌があり，学会の魅力は活発な討論の場をどれだけ提供できるかに依存します．とはいえ，このことには費用がかかりますから，それを補填するための会費収入を増やすには，多和田元会長が仰ったように，会員数を増やす必要があります．

私の経験によれば，学会に加入したのは指導教員の推薦や知り合いの研究者からの紹介でした．その意味で，会員諸氏にも新会員の勧誘をお願いしたいのですが，その際にも何らかのセールスポイントが必要です．

日本応用経済学会の会員数は 500 名，会費 8000 円です．私が役員を務めた日本経済学会や日本商業学会と比べると，会費が安くて会員数は少ないわけですから，会費収入が少なくなりますが，他の学会と同様に年 2 回研究大会を開催しています．とはいえ，学会誌の発行は年 1 回と，他の学会の年 4 回と比べて少なくなっています．若い研究者が就職する際には，論文の掲載数が重要となるので，この点は改善する必要があるかも知れません．

応用経済学会の特長は，1 報告あたりの報告時間や討論時間が長く，大学院生の口頭報告も認められていることです．日本経済学会ではポスター発表ですし，商業学会では大会前日の院生セッションでの研究発表になります．この点は大学院生や若手研究者を勧誘する際のセールスポイントとなるでしょう．

商業学会では，全国大会とは別に，地域の研究者が集まって研究を発表する「例会」を年に数回開催しています．これは費用負担も少なく，新しい討論の場を提供する試みとして検討する価値があるように思います．また，大会開催時にいくつかのテーマについての「チュートリアルセッション」を設け，開催校周辺の大学の院生に参加を呼びかけるということも考えられます．これらも新会員を勧誘する際のセールスポイントとなるでしょう．

会長任期中は，応用経済学会の発展のために尽力するつもりですので，会員各位のご支援をお願いいたします．

II.　前会長挨拶

2016 年 9 月
日本応用経済学会
前会長　大住圭介

日本応用経済学会は発足以来 10 年という節目を迎え，昨年 10 周年記念大会を開催することができました．この 10 年間，会員の皆様のご尽力により，質・量の両面で着実に前進を続け，充実したものになってまいりました．今後，成生達彦新会長を中心とした新体制のもとで，新たな発展に向けて船出していくことになりますが，順調な発展航路になりますよう，会員の皆様方の一層のご支援をお願いいたします．

最後に，2 年間にわたって学会長を務めさせていただきました．学会の運営等に関して会員の皆様には種々のご支援を賜り，ありがとうございました．この場を借りて御礼申し上げます．

III.　理事会報告

【2015 年度第 2 回理事会報告】

開催日：2015 年 11 月 14 日
場所：獨協大学東棟 5 階 E513 教室

出席者：大住，成生，田中，福重，多和田，薮田，秋山，細江，焼田，青木，今泉，永星，木原，慶田，坂上，中村，福澤，小川，松波，藤田，内藤（以上，理事），大内田（開催校），野崎（事務局）以上

開催校挨拶

議事に入る前に，創立 10 年記念大会の実行委員長である木原隆司理事より挨拶があった．また，大住会長より挨拶があった．

議題

１．新会員承認

平成 27 年 6 月 14 日～平成 27 年 11 月 13 の間の入退会者について，入会者 8 名全員が承認された．続いて退会者 3 名についての承認が行われた．

２．国際交流の件（実績報告）

国際交流委員会薮田委員長より 2015 年 KAAE 大会派遣者が 4 名，2015 年 KEBA 大会への派遣者が 3 名であることの報告が行われた．また学会誌の相互協力について議論があり，交流学会と薮田委員長が話し合いをもつこととなった．

３．編集委員会報告

応用経済学研究第 9 巻の編集状況について編集委員会の福重元嗣委員長より報告が行われた．また，6 月の第 1 回理事会，総会にて承認された内容に基づき，投稿規程の改正，著作権譲渡の規程について審議され，承認された．

４．来年度春季大会開催校について

広島大学に決定したことが細江常務理事より報告された．来年度春季大会プログラム委員長について細江常務理事より個別に相談させて頂きたいとの旨の説明があり，既にプログラム委員長を務められた方も含め，協力の依頼があった．

５．来年度秋季大会開催校について

細江常務理事より慶応義塾大学に内定したことが報告された．

7. その他

KAAE への友好記念として贈るペナントの完成が報告され，懇親会のときに渡すことが報告された．

次回開催校を代表して大内田康徳先生より挨拶があった．

【2016 度第 1 回理事会報告】

開催日：2016 年 6 月 25 日 11:00～

会場：広島大学東広島キャンパス法経講義棟３F 大会議室

出席者：大住，成生，田中，福重，多和田，秋山，細江，焼田，秋本，内山，木原，坂上，中村，林田，林，堀，小川，藤田，内藤（以上，理事），大内田康徳（開催校）野崎（事務局）

開催校挨拶

議題に入る前に，大内田康徳大会実行委員長より挨拶があった．

議題：

１．入会・退会員承認

平成 27 年 11 月 14 日～平成 28 年 6 月 24 日までの入会希望者 10 名全員について入会が承認された．続いて退会者 5 名についての承認が行われた．

２．平成２７年度会計報告

平成 27 年度会計報告が秋山常務理事より行われた．会計報告書の作業が遅れたことにより，監査が十分ではないことについて秋山常務理事よりお詫びがあった．監査より修正の指摘があれば，秋季大会にて修正報告を行

うとの条件付きで監査報告を受けた．理事会では，この会計報告について了承した．

３．平成２８年度予算

秋山常務理事より予算案が提出され，理事会にて承認された．

４．２０１５年度学会賞選考報告（資料２－１，２－２）

多和田学会賞選考委員長より報告が行われ，2015 年度学会賞，学術論文賞の授賞者についての報告が行われた．続いて著作賞に授与者について報告が行われた．著作賞について，今後，選考方法，基準などについて検討を行うことが報告された．

５．学会誌編集の件

学会誌編集委員会の福重委員長より第9巻が３月に刊行されたことが報告された．投稿された論文の審査状況について報告が行われた．編集委員会の編成について提案があり，承認された．

５．国際交流について

中村保副委員長より 2015 年度 KEBA 派遣，2016 年 KAAE 大会派遣の実績報告が行われた．若手の会員に応募を促していきたいとの提案があった．中国数量経済学会との交流について，今年度の中国数量経済学会の日程について報告が行われ，詳細について決定することが承認された．

学術交流の立場から相互にジャーナルへの投稿に関する意見交換について中村副委員長より報告があった．

７．役員改選

大住会長より説明があり，その後，細江常務理事より補足説明が行われた．会長に成生達彦先生（京都大学），副会長に田中廣滋先生（中央大学），焼田党先生（南山大学）が選出された．その後，常務理事，理事，委員についての承認が行われた．また一部の理事，委員については，これから打診するものも含まれていることの説明があった．

新常務理事，新理事（2016 年６月～2018 年６月）は以下の通り．

常務理事：薮田雅弘（中央大学），福重元嗣(大阪大学)，多和田眞（愛知学院大学），大住圭介（福岡女子大学），秋山 優*(九州産業大学)，坂上智哉（熊本学園大学）**，細江守紀**（熊本学園大学）*財務担当　**総務担当

理事：青木玲子（九州大学），大川隆夫（立命館大学），林田 実（北九州市立大学），松波淳也（法政大学），秋本耕二(久留米大学)，瀧井貞行（西南学院大学），林 正義（東京大学），藤田康範（慶應義塾大学），大内田康徳（広島大学），今泉博国(福岡大学)，木原隆司（獨協大学），渋澤博幸（豊橋技術科学大学），山田光男（中京大学），内山敏典(九州産業大学)，慶田 收(熊本学園大学)，福澤勝彦(長崎大学)，柳川範之(東京大学)，小川光（東京大学），堀宣昭（九州大学），三浦 功(九州大学)，奥野（藤原）正寛（武蔵野大学），中村 保(神戸大学)，渡辺淳一(福岡大学)，永星浩一(福岡大学)，中山恵子（中京大学），伊ヶ崎大理（日本女子大学），内藤 徹（同志社大学），柳瀬明彦（名古屋大学），野崎竜太郎（保健医療経営大学）

氏名の下線は新任者です．

8．その他

堀理事より，国際学会についての説明，ならびにアナウンスなどの情宣についての提案があり，承認された．

Ⅳ．「応用経済学研究」編集委員会報告

「応用経済学編集委員会」委員長
福重元嗣（大阪大学）

1．第 9 巻の刊行について

第 9 巻は 2016 年 3 月に刊行された．第 9 巻では，4 本の研究論文が掲載された．なお，7 本の論文の審査が編集期間内に完了せず第 10 巻以降へ引き継ぐこととなった．

2. 編集委員会について

第 10 巻の編集体制については，2016 年 6 月の理事会にて編集委員として．松村敏弘(東京大学)先生に追加で加わってもらうことが承認されました．

第 11・12 巻の編集体制については，林正義(東京大学)先生を次期の編集委員会委員長とすることが，2016 年 6 月の理事会で承認され，2016 年 12 月 1 日より，編集委員会をスタートさせることになりました．

3. 第 10 巻の編集について

第 10 巻については，2017 年 3 月に刊行の予定である．2016 年 8 月 25 日現在での状況については，以下の通りである．

2015 年 12 月以前　　引継論文 7

採用 3　不採用または取り下げ 1

2016 年 1 月～8 月　　投稿論文 13

採用 0　不採用または取り下げ 2

合計：論文 20

(採用 3 不採用または取り下げ 3)

現在 14 本の論文が審査中あるいは改訂中である．第 9 巻に引き続き，投稿論文の出だしが遅く，年度内刊行を前提とすると編集上厳しい状況が続いている．学会活動を活性化するためにも，さらなる積極的な論文投稿を期待したい．

V. 2015 年度学会賞について

学会賞選考委員長

多和田眞（愛知学院大学）

学会賞

松村敏弘氏（東京大学）

（受賞理由）

松村敏弘氏は寡占企業間の競争を中心に，公企業とその民営化，混合寡占，空間的競争，製品差別化や垂直的取引構造など，産業組織論のさまざまな研究分野において，経済理論分析を中心に優れた研究を行っており，その研究成果は多くの査読付き国際的学術誌に膨大な数の論文として掲載されている．長年，産業組織論の理論的研究の分野において，日本を代表する世界的な研究者として精力的な研究を継続的に行っていることは非常に高く評価できる．

学術論文賞

北浦康嗣氏（法政大学）

大森達也氏（中京大学）

選択対象論文　「Treat the Earth: Natural Environment, Fertility, and Government in an Overlapping Generations Economy」（応用経済学研究第 9 巻掲載）

(受賞理由)

長期的な自然環境の保全を世代間の遺産の問題としてとらえて，世代重複モデルを用いて分析するという，学術的に特色のある論文である．この論文は理論的な研究貢献のみならず，環境問題の政策的適用性についても優れている．政府による直接的な環境改善投資政策と環境教育への投資による間接的な環境改善政策を考察することで，環境教育投資の意義について論じた独自性が評価できる．

奨励賞

該当者なし

著作賞　２点

成生達彦氏（京都大学）

対象著作　成生達彦著　「チャネル間競争の経済分析流通戦略の理論」（名古屋大学出版会，2015年）

（受賞理由）

本書はチャネル間競争について，従来の研究を超えた，価格－数量競争による新たな分析枠組みを提示している．これまでは，現実に観察される様々な経済・流通現象に対し従来の研究は生産者と小売業者が「価格–価格競争」を行うことを想定した分析が主流であった．それに対して，本著者はより現実的な「価格–数量競争」の観点から新たな地平を開拓するとういう意欲的な試み，フランチャイズ料制，再販制，テリトリー制，専売店制の従来の理解を一新している．多く章はすでに査読雑誌等に掲載された論文を下地にしており，研究には独創性がみられ意義のある研究である．経営学的な観点の取り組みの一層の組み込みが期待されるが，応用ミクロ経済学の極めて画期的なり理論研究であり，日本応用経済学会の著作賞に十分値する．

万軍民氏（福岡大学）

対象著作　万軍民著　“Consumer Casualties: Exploring the Economics of Habit, Information, and Uncertainty in Japan ”（ Palgrave Macmillan，2014）

（受賞理由）

喫煙やギャンブルといった常習性 Addiction をともなう行動について，Consumer-Casualties という観点から分析しており，とくに，政策的側面を計量的に検証している点で高い新規性がある．また，分析方法もスタンダードでしっかりしたものであり，著者の実力を反映した，良い書籍である．ただし，これらの選好要素は現在活発に議論されている行動経済学の取り組んでいる分野であり，行動の合理性を疑問した研究結果がでている．本書の対象領域もまさに行動経済学の研究領域に重なるもので，そうした観点からの議論を積極的に取り込まれていない点で物足らない面が若干あると，判断されるが，この点を考慮したとしても，日本応用経済学会の著作賞に値する著書である．

Ⅵ.　国際交流委員会報告

国際交流委員会報告

「2014 年　韓国応用経済学会に参加して」

国際交流担当理事　　薮田雅弘（中央大学）

韓国応用経済学会（KAAE），韓国経済通商学会（KEBA）ならびに中国数量経済学会（CAQE）と交流を定期的，継続的に行っております．各学会に所属の研究者が相互の学会に参加し交流する形で応用経済分野の発展に寄与しています．日本・中国・韓国の応用経済学に関する研究状況や情報を幅広く交換し，最新の研究動向を把握するとともに，各国，各学会間の親睦，理解の発展に寄与するものと考えています．とくに若い世代の研究者にとっては，派遣，交流のチャンスとなっています．

2015年度の秋季大会時以降，KABAの大会が平成27年11月27日-28日に開催され，3名の先生にご参加いただきました．また，平成28年4月3日（金曜日）に開催されましたKAAE大会には5名の先生と国際交流委員会副委員長の中村保先生(神戸大学)が参加されましたので報告いたします．

今回は，両大会にご参加頂き，派遣団代表の労を頂きました関東学院大学の中泉拓也教授に両大会の様子について報告頂きましたので，ご紹介させて頂きます．

KEBA, KAAE 参加報告

中泉拓也（関東学院大学）

日本応用経済学会より，2015年11月27日の韓国経済通商学会(KEBA)年次大会，2016年4月15日の韓国応用経済学会(KAAE)年次大会に研究報告の機会をいただき，両学会に参加いたしました．

更に，ともに団長という大役も仰せつかりました．実は，今回が韓国への初渡航で不慣れなこともあり，お受けするかどうか迷いましたが，韓国の友人も多く，大げさですが，国家の軋轢を超えた草の根の交流を推し進めたいという希望から，お引き受けした次第です． また，KAAEの大会時には，日本応用経済学会からのペナントも贈答致しました．以下は，これら二つの学会への参加報告です．

1. 韓国経済通商学会(KEBA)大会にて

韓国経済通商学会の大会には，日本から，中泉拓也（関東学院大学），Sangho KIM先生（立命館アジア太平洋大学）福田勝文先生（広島大学）の３名が参加しました．

事前の懇親会でも歓待を受けましたが，学会は，に韓国の大邱市にあるKyungil University で行われました．正直，学会に参加し，交流を深めることに意義があると考えての参加でしたが，討論者の先生が専門とは非常に尽力してコメントして頂いたのに感謝しましたし，他の研究報告も興味深いものが多かったです．

また，学会では，FTAについてのシンポジウムも行われており，当学会が，韓国の中でも重要な位置を占めることがわかりました．学会では，応用経済学会の代表として英語で簡単な挨拶をしましたが，日本語が堪能な先生が多く，コミュニケーションもスムーズで大変助かったことも申しあげたいと思います．

「当日にも懇親会で，歓待されたのち，翌日にKEBA 会長の Soo Suk Sohn 先生とともに，記念撮影をいたしました.」

「学会翌日の集合写真」

今回が初めての韓国渡航でしたが，到着した直後から親しみやすい環境で，非常に快適な渡航となりました．更に，学会での歓待は予想をはるかに超えるものでした． 日本ではおもてなしという言葉がありますが，おもてなしをうけたほうが恐縮してしまうほどのおもてなしというのは，なかなか受ける機会は少ない気がします．しかし，韓国では，そういうおもてなしを受けて，恐縮している次第です．

韓国応用経済学会(KAAE)年次大会にて

韓国応用経済学会(KAAE)年次大会には，中泉拓也 （関東学院大学）他，Sangho Kim 先生（立命館アジア太平洋大学），三好向洋 先生（愛知学院大学），平賀一希 先生（東海大学），若野綾子 先生（大阪大学大学院）の５名が派遣された他，神戸大学の中村保先生もセ

ッションチェアとして参加され，懇親会や翌日のextension programで精力的に交流されていました．

私は，上述の役割のうち，先ず前日の懇親会で，無事ペナントをお渡しすることができました．翌日の学会は，由緒ある釜山国立大学校（Pusan National University）で行われました．

「応用経済学会の参加者とKAAE会長と」

「集合写真」

私の専門は不完備契約理論で，なかなか専門的に有益なコメントを得られる機会が一般に少ないのですが，なんとKAAEでは，ソウル大学教授の社会選択の分野で著名な Biung-Ghi Ju先生がコメントしていただき，たいへん驚きました．最高レベルのレフェリーコメントもお送りいただいて，とても参考になりました．本当に感謝の念にたえません．

また，翌日のextended programでは，釜山のAPECの場所などを案内していただきました．釜山には，朝鮮出兵にちなんだ場所も多くあります．そういった場所も知っておかなければならないと感じた次第です．両国の過去については，ご存知の通りですが，国を超えた草の根の交流は是非とも進めていかなければならないと考える次第です．そういったことを改めて様々に考える上でも，非常に有意義な学会出張でした．

以上，このような機会を与えていただいた応用経済学会への理事会や事務局の皆様にも，心より感謝する次第です．当然，二つの学会で歓待していただいた，韓国商経学会の参加者並びに主催者の先生方，韓国応用経済学会の参加者並びに主催者の先生方には，心より御礼を申し上げたいと思います．最後に，学会員の皆様には，参加を強く推薦する次第です．

事務局注）友好記念のペナントの贈呈式を11月14日15日開催されました創立10年記念大会の懇親会時にお渡しいたしましたが，間違いがあることに気づき，改めてKAAEにお渡ししております．

VII. 紹介！研究室

今回の「紹介！研究室」で，広島大学大学院の後藤大策先生の研究室紹介です．

後藤大策（広島大学大学院国際協力研究科）

広島大学大学院国際協力研究科にある私の研究室には，2016 年 10 月 1 日現在，博士課程 3 名，修士課程 9 名，研究生 1 名の学生が

所属しています．彼らの出身国は多様であり，日本（3 名），ラオス（3 名），ベトナム（2 名），中国（2 名），スリランカ（1 名），アンゴラ（1 名），リベリア（1 名）の 7 カ国です．留学生 10 名のうち 9 名は日本国が提供する各種奨学金を獲得している若手の行政官や大学教員，国際機関職員という現役の専門職業人です．研究室の共通言語は英語であり，日本人も含めて，全員が全ての講義・演習・論文作成，研究室生活を英語で行います．また学生のモチベーションは高く，良い意味でお互い切磋琢磨を行っています．この特殊性を活かし，私の研究室では学位論文の作成が最終的なゴールではなく，将来，国際学術論文誌に論文を掲載するための共同研究者の養成をゴールとして教育・研究活動を展開しています．主な研究テーマは，途上国の農村地域で展開されている貧困削減政策（マイクロ・ファイナンス，教育政策）の影響評価や，将来行われることになる貧困削減政策（マイクロ健康保険など）の選好評価を，現地家計調査やフィールド実験を通じて収集した 1 次データを用いて統計分析を行うことです．途上国での共同研究に興味のある方は，是非一度私の研究室にお越し下さい．

VIII.　秋季大会について

2016 年度日本応用経済学会秋季大会は 11 月 26-27 日に慶應義塾大学の藤田先生を大会委員長として準備が進められております．会員の皆様には奮ってご参加のほど，よろしくお願い致します．

IX.　事務局だより

リオ五輪も終わり，ようやく暑さも和らいできた今日この頃です．過日の広島大学での春季大会には多数の会員にご参加いただきありがとうございます．

ニューズレターにも記載した通り，今年度から京都大学の成生会長のもと新たな体制で運営をおこなうことになりました．事務局も全力で学会をサポートする所存でございますのでなにとぞご支援の程，よろしくお願い致します．

（ニューズレター作成担当　内藤徹（同志社大学））

平成27年度　日本応用経済学会　会計報告

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)－(a)
繰越金	2,455,307	2,455,307	0
会費収入	3,050,000	3,357,000	307,000
参加料収入	480,000	488,000	8,000
懇親会費収入	180,000	169,000	▲ 11,000
学会誌収入(掲載料)	150,000	90,000	▲ 60,000
学会誌収入(投稿料)		30,000	30,000
利子収入		72	72
			0
獨協大学より		250,000	250,000
（収入小計）	3,860,000	4,384,072	
合計	6,315,307	6,839,379	524,072

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)－(b)
通信費	100,000	90,049	9,951
消耗品費	100,000	125,182	▲ 25,182
事務補助費	400,000	225,750	174,250
学会開催補助費	800,000	1,050,000	▲ 250,000
懇親会補助費	180,000	169,000	11,000
理事会開催補助費	100,000	79,500	20,500
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等補助金	200,000	110,000	90,000
学会賞	60,000	50,677	9,323
国際交流費	350,000	312,040	37,960
払込手数料	50,000	43,086	6,914
学会誌購入	1,900,000	1,477,440	422,560
雑費	50,000	51,120	▲ 1,120
予備費	2,035,307	0	2,035,307
小計	6,375,307	3,783,844	2,591,463
繰越金		3,055,535	
合計	6,375,307	6,839,379	▲ 464,072

上記の通り報告致します。

会計担当理事　秋山　優

会計担当幹事　野崎竜太郎

監　事　長島　正治

監査の結果、上記相違ありません。

平成28年度　日本応用経済学会　予算

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

1．収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	3,055,535	
会費収入	3,210,000	(8,000円×370人)＋(5,000円×50人)
参加料収入	480,000	2,000円×120人×2回
懇親会費収入	170,000	{(1,000円×5人)＋(2,000×40人)}×2回
学会誌収入	120,000	掲載料15,000円×6人＋投稿料6,000×5人
利子収入		
(H28収入小計)	3,980,000	
合計	7,035,535	

2．支出の部

項目	予算額	
通信費	100,000	
消耗品費	100,000	
事務補助費	400,000	200,000円×2回
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
懇親会補助費	170,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等補助金	200,000	
学会賞	60,000	
国際交流費	350,000	(2人2泊5万円＋旅費2人10万円)*(派遣＋招待)
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,800,000	
雑費	50,000	
小計	4,230,000	
予備費	2,805,535	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	7,035,535	